農業のイメージを変えることが大切

農家の暮らしを考える会

意見や体験の交流をはかり、農家生活の向上に役立てよう――。今年で六回目を迎えた「農家の暮らしを考える会」（主催・南国農業改良普及所）が一月九日、南国市、香美郡下から約二百五十人の主婦が集まり、社会福祉センターで開かれました。

農業経営や家庭生活など、活発な意見交換が行われた

まず、西森雄蔵南国農業改良普及所長が「それぞれが意見を出し合い、今日は有意義な会となることを期待しています」とあいさつ。

午前中は、四組の専業農家の夫婦（市内からは、二宮修・真紀さん、武市憲雄・慶子さんの二組）が、農業経営の取り組みや、生活での問題点などの意見発表を行いました。身近な発表に、参加者からは笑いも起こっていましたが、嫁と姑の話では「うーん」と、うなずきながら聞いている主婦もありました。

午後からは、その発表に基づき『農家の暮らしを考える』をテーマにパネル討議を行い、助言者も交え活発な討議がされました。

以下、意見発表の主なものを拾ってみると――。

《農業経営は――》

ぶどうを栽培しているが、年に一度の収穫なので合理的な経営をしなければならない。県外への研修も積んだ▼消費の傾向をつかむことも大切▼畑は家族で分担を決め、それぞれが責任を持つ▼今年から新しく花の栽培を始めたが、先輩とのつながりもでき勉強になった▼サラリーマンからの転身で、最初は暗いイメージしかなかったが、今は都会にはない助け合いの精神があると思っている▼後継者が育つためには、もっと自由な時間が持てるような農業経営にしていくことで、農業の暗いイメージを崩すことも大切……など。

《家庭生活では――》

家庭で一番大切なのは健康だ。職業が違う主婦が集まりママさんバレーをしているが、ストレス解消になり、生活にリズムができる▼子供たちに、手作りの料理を食べさせるようにしている▼農業をしない子供が増え、地域の中で働くことも少なくなっている。今は農村でさえ青少年の非行が問題となっており、地域活動の子供会は大切と思い、その育成に積極的に取り組んでいる▼嫁と姑の問題は難しいが、農家であったからできた面もある▼困まったとき、本当に信頼できる友達を持つことができた……など。

以上のような多くの意見発表の中で、事情は違うにしろ、農業経営に飛び込んだ皆さんが、生き生きと生活している姿が印象的でした。

リフォーム作品など並ぶ

●暮らしを考える作品展●《日章》

バザーや展示コーナーは、主婦でにぎわった

日章地区の「暮らしを考える作品展」が一月十二日、市農協日章支所で開かれました。

厳しい農家経営の中、心豊かな生活をと、四年前に始まったもので、今回は農協青壮年部や地区婦人会などが実行委員会をつくり主催したもの。

午前中は、俵寿太郎高知医科大学副学長が「日常の健康管理について」と題して講演。午後は、バザーや展示コーナーに多くの主婦でにぎわいました。

展示コーナーには、布団の古布を利用したのれんやワンピース、古タイヤを使った花器など工夫を凝らした作品がいっぱい。折り紙教室での作品も並べられ、グループ活動の発表の場になっています。また、老人クラブや日章小学校から、日本画や書道、絵画などが出品されました。

バザーでは、婦人会の皆さんが協力して集めた日用品や衣類、野菜など千点が売られ、この売り上げ金は、アフリカ募金と働く農村青年婦人の像の建設資金に役立てていくとのことです。

島内瑞恵日章地区婦人会長は「四回目を迎え、ようやく地域にも浸透してきました。今回は子供からお年寄りまでが参加していただきうれしいことです」と話していました。